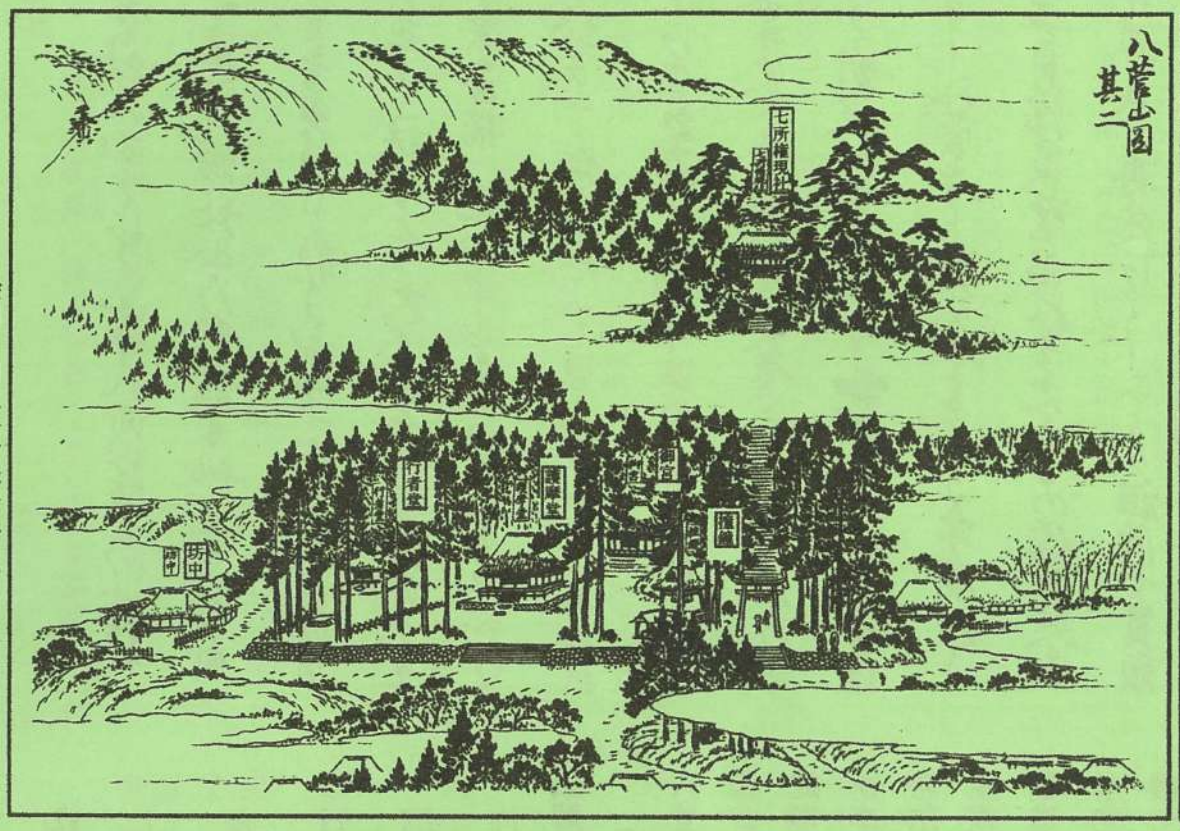
古文書を読もう

第32号
令和7年3月

古文書で知る郷土の歴史



絵図：国立公文書館所蔵版の絵図を加工

古文書で知る郷土の歴史（十四）

『相中留恩記略』⑦

今回はかつて神仏混交の信仰の聖地で、南関東の修験道の一大拠点だった八菅山（はすげさん）です。中津川右岸に位置し、現在は愛川町八菅山地区になっています。

八菅山の縁起や伝承は『新編相模国風土記稿』八菅村の中で詳述されており、日本武尊（やまとたけるのみこと）、修験道の開祖役小角（えんのおづぬ）、高僧行基（ぎょうき）などの来山が伝えられ、源頼朝や足利尊氏・足利持氏による社殿の建築や整備が行われたといわれています。天正十九年（一五九一）には徳川家康から寺領と寺中不入の朱印状を賜りました。最盛期、山内には七所権現社（七社権現社とも）と別当光勝寺の伽藍のほか五十余の院や坊がありましたが、明治時代の神仏分離令により光勝寺は廃され、七所権現社は八菅神社と改称されました。上の絵図では、中央奥の山上には七所権現社が、山麓には光勝寺の護摩堂・撞鐘・行者堂などが描かれています。

かつての八菅修験の入峰（※にゅうぶしゅぎょう）修行は、光勝寺から急峻な尾根の縦走を繰り返しながら三十の行所を回峰して大山寺の不動堂（現・阿夫利神社下社）に至る約五十三キロメートルを踏破する荒行でした。

現在も毎年三月二十八日に開催される八菅神社例祭で行われる火渡りは、一年の無病息災を祈る伝統行事です。山伏装束の人たちが燃え盛る火の中を歩く光景は、往時の修験者の荒行の一端を今に伝えており、一般の人も火渡りに参加することができます。

※入峰修行：修験者が険しい山などに入り修行すること。

厚木市古文書解読会

あつぎ郷土博物館に収蔵されている古文書の解読に取り組んでいます。興味のある方は第2、第3、第4木曜日に活動していますのでお問い合わせください。

あつぎ郷土博物館　TEL 046－225－2515

古文書を読もう
第１０巻４号通巻３２号
発行日　令和７年３月２７日
発行　厚木市
編集　あつぎ郷土博物館
厚木市古文書解読会
住所　〒二四三―〇二〇六
厚木市下川入一三六六―四
電話　〇四六―二二五―二五一五